

湘南学園だより

No.118

 発行部
 園だより部
 湘南学園
 編集

スタートライン

学校法人湘南学園 理事長 辻 彰彦

卒業生のみならず、
に卒業おめでとうを。

次のステージへのスタートラインに
立つて希望に満ち溢れていること
でしょう。

これからのみなさんの人生が幸せに
満ちたものであることを心よりお祈り
いたします。

創立80周年を迎えて

さて、湘南学園は、昭和8年の創立
以来、子どもたちの個性を尊重した自
主性を育む自由な教育により、気品高
く明朗な将来社会に役立つ人間を大
きく育てるといふ建学の精神を守り、今
年80周年を迎えることとなりました。

幼稚園、小学校そして中高一貫教育
の中で、個性を伸ばす素晴らしい学園
生活、教員の英知を結集した温かみの
ある教育、そして教職員と父母の手で
運営されているユニークな学園でもあ
り、長きに渡り湘学流教育術が承継さ
れてきました。

湘南学園の新しい魅力

80周年記念事業のひとつとして80周
年記念館の建設も始まり、厳選された
食材、地産地消の考えに基づく本格的
な食育への取り組みを進めていきます。
そして、この食育は湘南学園の教育の
新しい領域への挑戦であり、新しい魅
力を作り出す投資でもあります。

食育の重要性

人は「生きていく」のではなく「生
かされている」という考え方がありま
す。命あるものすべてでは自分の意思と
は関係ないところで大いなる大地の恵
みによって生かされているのです。人
は食べ物から元気の源を頂き、生命が
維持継続されています。また、その土
地や気候にあった食べ物や季節ごとに
収穫される、いわゆる旬の食べ物、
その時期に身体が最も必要としている
ものなのです。だからこそ美味しく感
じるのでしょうか。

ところが、いまの若い人の中には、
簡単、便利なインスタント食品を常食
にしている人が少なくありません。た
しかに、インスタント食品は賞味期限
が長く非常時には強い味方になります。
このインスタント食品が3・11の震災
発生後から数ヶ月の間でどれだけの命
を繋いだかわかりません。

しかし、日常的に非常食に依存した
食生活を送っていたら、必ず身体は悲
鳴を上げ、健やかな心までも失われて
いくことでしょう。

土地や気候にあった食べ物、季節ご
とに収穫される食べ物をきちんと摂取
していくことを継続し、身体だけでな
く心のコンディションも整え、活力の
みなぎる朝を迎えることで、一日全力
で頑張れる心と身体ができると信じて
います。このように、人間の本来ある
べき食事は、健康な身体を作るだけ
でなく、心まで明るくし、プラス思考を
生み、その人の個性にさらなる豊かさ
を与えてくれるはずです。

すでにご家庭ではそれを実践されて
いると思いますが、学園のカフェテリ
アでも同じことを目指していきたいと
考えています。食育の中心であるカフ
テリアが卒業後のみなさんの親睦の場
となることを心から望んでおります。

今なぜ身体と心の健康か

食が私たちにもたらしてくれるもの
について少しふれてきました。なぜ身
体と心の健康を育てることが大切な
のでしょうか。それは環境問題、政治や

経済、少子高齢化に就職難など、卒業
生のみならずただでなく在校生のみ
さんがこれから飛び出していく社会に
は問題が山積しているからです。さら
に、インスタント食品だけでなく私た
ちの周りに溢れている便利なもの、手
軽なものには、何かしらのマイナス要
素も含まれているということを改めて
考えて欲しいと願うからです。

湘南学園を卒業した後の世界では、
楽しいこと、嬉しいことよりも、つま
いことや自分の思い通りにならないこ
とのほうが多いのかもしれない。だ
からこそ、社会に出る時に備えて、身
体だけでなく心の強さも育てて欲しい
と思うのです。

誇りを持って羽ばたこう

教育という言葉は本来「引出す」と
いう意味だそうです。子どもに自分の
観察から学ばせることを説いています。
湘南学園では、自分で考える力を引
き出すための教育が、幼稚園から高等
学校までのそれぞれのパートで培われ
てきました。その湘南学園で学んだみ
なさんは、自分で考える力を磨いて卒
業していくはずですよ。そして、それは
多くの困難が待ちかまえているであ
るう社会に出た後に、きつとみなさん
を支えてくれるはずです。

卒業生のみならず、どうか湘南学園
生であったことに誇りを持って羽ばた
いて下さい。母校はいつでもみなさん
のためにあるのです。

「卒業、卒業おめでとうございます」

「ここがすごい！ 湘南学園カフェテリア」を

みんなで考えましょう

学園長 仲本 正夫

はじめに

3月は卒業・卒園の季節です。

卒業生や卒園生の皆様のご卒業

を心からお祝い申し上げ、新しい世界で一層ご活躍なされることをお祈りいたします

保護者の皆様には湘南学園のために、PTAはじめ評議員、あるいは理事・監事として長期間にわたり、献身的に学園に貢献していただきました。心からお礼を申し上げます。

私のお弁当

私は毎日の昼食には、大きなタッパにキャベツやキュウリ、トマト、それにもずくなどをどつさりもってきて、ポン酢をかけて食べています。分量は、どんぶり一杯分ぐらいです。それと、120gほどのごはんをタンパク質をとるおかずなどを食べます。何しろ、人間ドックの検査では、

毎年、体重をあと10キロ減らしなさいときびしい指導をされているからです。そこで、病気になるって寝たきりなどになるよりは、その前に食生活を変えた方がいいと体重計にも乗っている毎日です。

湘南学園のカフェテリア

湘南学園にはいよいよ今年10月前後に待望のカフェテリアが誕生します。その運営は、食育をすすめるNPO法人にお願いすることになり、その設立準備が始まりました。このカフェテリアを考えていくうえで面白い材料として、今話題の社員食堂があります。そのうち「タニタの社員食堂」と、「再春館製菓所の社員食堂」を取り上げてみたいと思います。

「タニタの社員食堂、500kcal」

体脂肪計のタニタの社員食堂が丸の内に出現し、テレビなどでも

とりあげられています。例えば800円の日替わり定食は、中華風五目煮にモロヘイヤサラダ、桜えびのすまし汁、グレープフルーツ、ごはん、お昼のカロリーは500kcal、味付けは薄味ということ、ごはん茶碗の内側には、ラインが2本引いてあり、ごはんのカロリーがすぐわかるようになっていて、健康に配慮したメニューで、自然と体重も減らすことができるということと評判です。

「再春館製菓所の社員食堂」

「ここがすごい！10」

「再春館製菓所ニッポンいちの社員食堂」には、「ここがすごい10の魅力」が紹介されています。

①一皿で健康・美・やる気を引き出す定食

「海のもの、山のもの、根のもの、茎のもの、葉のもの、実のものが必ず含まれ、栄養バランスもばっちり」

②調理アイデアいっぱい！「厨房隊」の肝っ玉母さんたち
社員850人分の食事を作る
地元の女性たち・家庭料理のプロ集団
長年培った料理の腕前を發揮、家

族に食べさせるのと同じく、愛情をこめて丁寧にする料理。レシビは厨房隊から生まれたオリジナル。

③とにかくレシビが豊富

④食を通じて季節を味わう
四季折々のメニューも

土曜日の日にはうなぎ、クリスマスにはローストチキン、春には筍づくし、夏には流しそうめん、秋には栗やマツタケを使ったメニューも。

⑤旬の味覚がたっぷり
自社の畑で野菜づくり

じゃがいもがポテトサラダに。

⑥野菜の根や皮までムダなく使う
850人分の食堂で、一日に出る生ごみは家庭用ごみ袋で約4袋だけ。ピユッフェ形式で自分が食べられる分だけとる

⑦ドレッシングやたれ、漬物まで手作り

⑧デザートへのこだわり

⑨アツアツ、冷え冷えも楽しめる

⑩口ケーション抜群

「ここがすごい！と言える湘南学園カフェテリアに

ラーメンのカベ破りたい

再春館製菓所の10の魅力は、湘南学園のカフェテリアを考えるう

えてひとつのヒントを与えてくれています。

まず1番目は、そっくりいたできたいほです。とくに「一皿で健康・美・やる気を引き出す定食」というところがうまいですね。

カフェテリアに関するアンケートでは、生徒が一番食べたいメニューはラーメンでした。そのラーメン好きの生徒たちが、定食に関心を広げ、魅力を感じて、定食を食べながら味覚をきたえ、自分の生涯健康な体づくりを意識していくようになるには、「定食は体にいいから食べよう」というだけではラーメンのカベは破れないと思うのです。もちろんラーメンそのものも具たくさんのラーメンなども研究していきたいところですが、「一皿で健康・美・やる気を引き出す」というようなググッとひきつけられるキヤッチフレーズが必要なのではないでしょうか。そのことはがついたとたん、急に「定食」が食べたくなり、定食を食べる意味がわかるようになるといういいなあと思います。

それに、「海のもの、山のもの、根のもの、茎のもの、葉のもの、実のもの」というフレーズも、いいですね。まさに湘南は地産地

消のできる地域、食材の宝庫。地域とつながり、地域にご協力いただいて、生徒たちが、「今日は鎌倉野菜の赤い大根食べたよ」「今日は○○産の豚肉がおいしかったよ」というような会話が家庭でも生まれるといいなあと思います。

2番目の「調理アイディアいっぱい！『厨房隊』の肝っ玉母さんたち」は、まさに湘南学園が始めようとしているNPO法人によるカフェテリアの運営の様子を表現しているような内容ではないかと思えます。

これから、NPO法人の方からも、準備ができ次第、保護者の皆様に「厨房隊」への参加を呼びかけていきたいという話を聞いております。湘南の食に詳しい人たちがアイディアを出し合って素敵なレシピを作り、おいしい魅力的な食の提供ができればいいなあと思います。それは、3番目の「とにかく豊富なレシピ」にも直結していると思います。

さらに4番目の「食を通じて季節を味わう」では、四季折々の行事食を大切にしているという。その季節がくるのが楽しみになっていくようなレシピもいいです

ね。ここにも「厨房隊」の経験やアイディアが生かされています。

5番目の「旬の味覚がたっぷり自社の畑で野菜づくり」も、考えてみれば、湘南学園は小学校の地域の田んぼを借りたお米づくりなどをやっており、さらに「自社の畑」よりはるかに規模の大きい湘南地方という学園の畑や海や山をもっているみたいなもの。地産地消もできる恵まれた環境にあり、まさに旬の味覚をたっぷり味わうことができるようになるのではないのでしょうか。

6番目は、生ごみが家庭用ゴミ袋で4袋分というのには驚きです。こういうことも考えておかなければなりませんね。

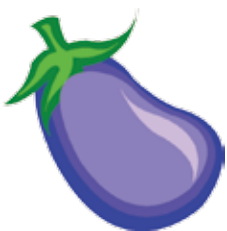
7番目の「ドレッシングやたれ、漬物まで手作り」などもNPO法人の運営だからこそできる挑戦として楽しみにしています。

8番目の「デザートへのこだわり」も、湘南の果物などそんなにお金をかけなくてもいろいろ考えられるのではないかなと思います。

9番目の「アツアツ、冷え冷えも楽しめる」も、作りたてのおいしさを味わえることはうれしいことです。作りたての料理をよそってくれたり、炊き立てのごはんも食べられるという工夫もされているのです。こういう魅力も大切だと思います。

10番目の「ロケーションを楽しむ」は、そのままは生かせないけれども、生徒たちが学校で生活する空間が広がって気分転換できるという施設としての魅力も打ち出したいなあと思います。

大きな夢が広がるカフェテリア
こんな風に見てきますと、湘南学園のカフェテリアに大きな夢が広がります。ニッポンのちのカフェテリアめざして、みんなで、どんなカフェテリアがいいのか、話し合っていきたいですね。



みんなで祝おう創立80周年
楽しい企画がいっぱい

創立80周年記念行事

参加型の記念行事めぐり

— こんな企画を検討中 —

80周年行事委員会委員長 齊木 修

創立80周年行事

卒業生の尾高氏・平尾氏の

「協力を得て企画立案へ」

いよいよ創立80周年の年となりました。80周年を子ども達、生徒のみなさん、保護者、教職員、同窓会、後援会、そして地域の皆様と共に盛大に、そして楽しく祝い、交流する場に行いたいと考えています。

十一月十五日（金）に予定されている創立80周年記念式典や十一月十六日（土）・十七日（日）に予定されているオール湘南学園音楽祭（ホームカミングデー）の企画にあたっては、十六日はクラシックを中心として、本学園OBである尾高惇忠氏（第十回生 東京芸術大学名誉教授）、十七日は

ポピュラーを中心として同じく本学園OBである平尾昌晃氏（第四回生 作曲家 歌手）にプロデュース、ご協力をいただけることになりました。両先生のアドバースをもとに企画立案を進めていくことになりました。

十一月十五日（金）午前

創立80周年記念式典について

記念式典については現在理事会で準備を進めています。

関係官庁、県内私立学校等教育関係者、諸団体、地元関係者、学園関係者の皆様にご列席いただき、児童生徒の発表も含めた式典を、中高アリーナを会場として実施いたします。

新旧の学園関係者が一同に会し

て学園の歴史を振り返り、また今後の学園の発展の道筋を改めて共有できるような会にしたいと思います。

式典の後に予定されている来賓をお招きしての祝賀会は、完成が予定されている80周年記念館のカフェテリアで実施します。簡素ではありますが、心のこもった交流の場になればと考えています。

十一月十六日（土）

オール湘南学園音楽祭

（第一日目）

クラシックを中心に

かつて湘南学園には芸術コースがあったこともあり、現在プロの音楽家として活躍の方も少なくありません。そうした方々と、園

80周年記念行事の概要

十一月十五日（金）

創立記念日

午前 創立80周年記念式典

同 祝賀会（来賓）

十一月十六日（土）

午前 オール湘南学園音楽祭

（第一日目）

クラシックの日

午後 数か所での

ミニコンサート

終日 ホームカミングデー

（第一日目）

十一月十七日（日）

オール湘南学園音楽祭

（第二日目）

ポピュラーの日

終日 ホームカミングデー

（第二日目）

会場 小学校

児・児童・生徒とのコラボレーションも含めて多彩なプログラムを考案しています。小学校の新校舎が完成したこともあり、中高アリーナだけでなく小学校ホール、小学校音楽室など音響効果にも優れた施設も整いましたので、その環境を生かした企画を検討しています。

またこの日はホームカミングデーの第一日目です。卒業生の皆様にはぜひ多数参加していただきたいと思っております。年齢を越えて、音楽を楽しみながらゆつくりと交流する一日になればと考えています。

十一月十七日(日)
オール湘南学園音楽祭

(第二日目)
ポピュラーを中心に
広く参加者を募集予定

ここ湘南の地は湘南サウンドを中心に、様々なポピュラーミュージックシーンの先進地です。学園関係者の中にもハワイアンやジャズ、フォークソング、ロックなどを楽しむ方も少なくありません。平尾昌晃氏もその第一人者として活躍されてきたかたです。一日目のクラシックから趣を変えて楽しむ一日になればと思います。

中高生から同窓会の皆様の生演奏も交えて思いっきり楽しいステージが展開出来ればと考えています。また地域の方々にも多数参加いただきたいと思えます。一日目も含め、近日中にエントリースートを発行し、広く参加者をもとめたいと思えます。

またこの日はホームカミングデーの第二日目となります。小学校の教室を開放して、卒業年度ごとの集まりの場として、また年度を越えての交流の場も用意いたします。園児、児童、生徒との交流の場としても、なごやかに楽しめる企画を用意していきたいと考えています。

80周年を盛り上げる
会場の外でも楽しめる企画
アイデア等募集中

ご紹介いたしましたオール湘南学園音楽祭に加えて、会場の外でも一日楽しく過ごせる80周年のお祭りにふさわしいグルメやバザー等の企画も検討していきたいと考えています。次の企画案①②についてご意見やアイデアや参加ご希望がございましたら、行事委員会にぜひお寄せください。

① 湘南グルメフェスタ(仮)

十六、十七日の両日はカフェテリアを中心に、飲食関係のブースを作り、参加のみなさんが楽しめるエリアにしたらどうでしょうか。

カフェテリアでは、生徒、児童の皆さんへ日常的に提供するメニューを参加者の皆さんにも試していただくことはどうでしょうか。

また、藤沢、湘南地域で飲食店を営んでいらっしゃるOBの方々にもぜひ出店していただき、まさに湘南グルメフェスタ(仮称)という名前にふさわしい、にぎわいできればと考えています。

② 湘南フリーバザール(仮)

湘南学園の背景にある湘南、鎌倉地域は、戦前から文化の香りと伝統のある地域です。同窓会の皆様始め、絵画、音楽、工芸などの世界でも研鑽を積み、業績を残していらっしゃる方も少なくありません。また保護者の中にも様々な分野で活躍されている方もいらっしゃると思います。

そうした湘南学園ならではの特

徴をいかしたフリーバザールがでないか考えています。

キルトタペストリー制作はじめ
多彩な取組みを企画したい

心をつなぐ「キルトタペストリー」の取り組みは、多数の方に賛同いただき、順調に取り組みが進んでいます。小学校の会議室を会場に、毎回同窓会、それぞれのパートの保護者、PTAの方々が和気あいあいと活動を進めています。八十周年に向けて、四枚の立派な作品が出来上がり、式典などで発表されることになっていきます。

また園児、児童、生徒を対象に、八十周年記念作文、ポスターコンクールなども予定しています。父母の皆様のお力もお借りして、園児、児童、生徒の参加を何よりも大切にしながら行事準備を進めていきます



創立80周年記念誌・動画DVDの制作へ向けて

記念誌委員会委員長 山田 明彦（中高） 校長



この一環から作業を進めています。記念誌委員会でも、どんな内容にしていこうかと話し合いを重ねて具体化してきました。

【記念誌制作の基本方針】

80周年記念誌では、湘南学園の近年の軌跡を中心にたどり、現在の各学校の教育と全学の様々な取り組みを紹介します。教職員、在校生、保護者、卒業生など学園に関わる多方面の方々に寄稿して頂いて、建学の精神と、将来に向かう学園教育の使命を深め直して頂けるような記念誌を刊行できればいいなと願っています。

【チーム湘南学園による制作】
湘南学園は、今年11月に創立80周年の節目を迎えます。その記念事業の一環として、記念誌と動画DVDを制作します。
これまでも10年ごとの節目に記念誌が制作されましたが、今回はその制作を担う委員会が設けられ、「チーム湘南学園」の協議を重ねて具体化を図っていることにポイントがあります。「チーム湘南学園」とは学校法人、幼稚園、小学校、中学校高等学校、PTA、同窓会、後援会の各団体を指します。学園に関係する全団体の参加と協議により創立80周年を迎え、将来への希望と展望を広げていきたいとの願

言い換えれば、不安や閉塞感が深まる現代社会において、学園の「スクール・アイデンティティ」を探求して、学園が今後はたすべき私学教育の役割を「チーム湘南学園」の眼を通して追究できるような記念誌を目指したいと考えています。各パートの旺盛な教育実践を具体的に紹介するだけでなく、その教育的な意味や可能性を考え、その取り組みと歩みを広い時代の背景の中でもとらえ直せるように心がけたいです。学園教育にある独自性や魅力や課題は、より広い教育的社会的な視野からとらえるとうる

のか、専門家からもコメントを頂きます。

近年の学園の歩みはトピックスを掘り起こし年表記述も重視します。近年の軌跡については、今後どんな重点努力を進めるべきかの観点でポジティブにまとめ、若い世代の教職員に先行する世代の経験や模索を伝えて、将来への課題意識を育む上で役立てたいものです。学園の将来像を豊かにするシンポジウムも行い、学園の克服すべき弱点や体質を自覚し、これからの教育・学校づくりと募集広報活動の強化にも生かせる「元氣と意欲の出る記念誌」を目指します。華美な体裁は避け、通読しやすい大判書籍とし、カラー写真や資料・図版などを多めに入れます。「すぐに書庫入りしてほとんど誰にも読まれない」本ではなく、幅広い通読を誘って、「学園の在校生と保護者が読んでみたくなる」ような編集に留意したいと思えます。

【記念誌のおもな全体構成】

記念誌タイトル『チーム湘南学園』
創立80周年を迎えて』

80周年記念誌の発行趣旨と目次
校舎の変遷でたどる学園の歴史

小学校新校舎及び80周年記念館の完成まで、

教員と保護者の共同経営による学校経営を続けてきた学園の歩みに留意します。

チーム湘南学園2013の写真

園児・児童・生徒、教職員を合わせた大集合写真
教職員の集合写真

・前回と同様に10年に度の歴史記録になります。大グラウンドに2千人前後が集まる光景はワクワクしそうです。

80周年記念事業の全体像紹介

幼稚園ページ（写真中心）

小学校ページ（同上）

中学校高等学校ページ（同上）

・在校生の日常生活、学校行事の輝く姿、校舎・教室の様子などビジュアルに各学校の今を紹介していきます。

未来を拓く湘南学園の教育

・カラーからモノクロへ移ります。

発刊に寄せて・理事長

発刊に寄せて・PTA会長

発刊に寄せて・同窓会会長

・チーム湘南学園を支える各部署から、80周年を節目に発展する取り組みや今後の構想などを紹介して頂きます。

森稔氏の功績と湘南学園80周年

教育振興基金の創設へ

・森氏はこの節目に学園に対して多大な貢献をして下さいました。新設する基金へ向けて巨視的な

ビジョンの重要性を論じて頂きました。

湘南学園の教育について・学園長
・ご着任以来の学園の歩みを概括して頂き、学園教育の到達点と今後の展望について、記念館の運営と合わせて論じて頂きます。

幼・小・中高 各学校の旺盛な
教育活動と教育実践の報告
・各パートから、現在重点的に進められている多彩な実践をレポートして頂きます。

保健室・カウンセラーから見た

学園生の現状
・時代の変化に伴う新たな教育課題と対応策を報告して頂きます。

学園教育の今後へ向けた教育

実践上の課題
・幼小中高を通じてどんな全学的課題意識を共有すべきか、将来へ向けた問題提起を、専門家に執筆して頂きます。

湘南学園の歩みを考える (1)

藤沢市教育史アーカイブス
座談会

湘南学園の歩みを考える (2)

大切にしてきた地域との連携

湘南学園の歩みを考える (3)

東日本大震災とその後の対策

湘南学園の歩みを考える (4)
理事会としての取り組み

・藤沢市を仲介した注目の座談会
のまとめや、近隣自治会との間に深まる協力関係、大震災時の経過と今後の様々な取り組みなど、学園全体の理解を深める内容です。

各学校および全学の募集広報活動
・私学全体をとりまく厳しい情勢の中で各パートと全学で懸命に展開される募集広報活動を紹介し
ます。

学園教育の将来像を探る座談会
・各パート・各世代の現場教員が集
まつて行います。学園の良さを確認し、現状と課題を率直に語り
合つて、将来の方向性を深められる座談の場にしたいです。

私にとつての湘南学園へ幼小中高在
校生の寄稿

・公募と指名で、在校生のリアルな
声を、学園への評価と期待や要望を集めたいと思います。

これからの湘南学園への期待

卒業生・保護者・退職教職員
からの寄稿

・各世代に広くまたがって寄稿をお願い
します。現在のお仕事や暮らしにグローバル時代の反映もあること
でしょう。当時の想い出をふまえて、学園教育への希望や要
請も述べてもらいます。

巻末資料 約20年間のトピックス年
表など諸資料を掲載

・近年、現在の歴史記録として、
後世にもつながるまとめを行います。



【動画DVDの制作目的】

70周年に続いて制作します。

学園生の活動風景や現在のロケ
ション・校舎施設を写真します。

幼小中高の、学園生たちの輝き
を伝え、先輩から後輩へと受け継
がれる精神を伝えて、全学の意思
統一と永続的な発展を促すような
魅力ある記録を制作したいです。

【動画DVDの内容予定】

オープニングPVでは、地域に根
ざす学園の歴史を紹介し、空撮に
より「鶴沼の地に在る学園」の魅
力を表現します。また草創期の卒
業生の方へのインタビュー内容を収
録します。全学の協力を受けて、
すでに最新機器を使った各学校取

材や全学へ地域の空撮を行つても
らっています。

幼稚園、小学校、中学高校それ
ぞれに、学校行事の様子や日常生
活の様子を題材に、園児・児童・
生徒の姿を写真したものをもつて
テーマずつ収録します。

幼稚園は入園式やお泊まり保育
を、小学校は新校舎と学校行事、
校外の総合学習を、中高は生徒会
主催の学校行事を中心に収録して
います。

エンディングPVでは総集編とし
て、「3世代の笑顔のリレー」を予
定しています。

【記念誌・DVDの配布】

創立80周年のお祝いの日に、全
学在在校生・保護者の皆様に配布
いたします。お楽しみになさって下さ
い。



PTA主催 幼・小・中高三百名が参加する 「ヤングアメリカンズ」開催について

3月14日(木) 18時開演・中高アリーナ

PTA会長 浦田 智禎

湘南学園びでは、今年度の新規事業として、3月12日(火)～14日(木)の3日間、学園のアリーナにて「ヤングアメリカンズ」を開催いたします。学園だよりを読まれる頃には、申込み手続きを完了し、参加を心待ちにしている児童・生徒が大勢いることと思います。

さて、「ヤングアメリカンズ」とは、どのようなものでしょうか？

1992年、アメリカで始まった音楽を通じた教育活動「ミュージック・アウトリーチ(出張授業)」は、全米45州に拡大し、現在21カ国でツアーを実施しています。日本では、NPO法人じぶん自由クラブが「ジャパンツアー」を運営し、アウトリーチ(出張授業)を提供してくれています。20数曲の歌と踊りをアメリカの若者と一緒に学び、最終日には彼らと共に舞台上上がります。これまで体験したことのない3日間が、新しい「ジブン」を生み出します。私は、体験型自己解放プログラムと捉えています。この3日間の

ワークシヨップで、自己を置き放ち、自己を再構築し、自己理解と相互理解を深める場として提供できればと考えられます。また、他の多くのツアーが、企業等との共催での実施をしている中、湘南学園PTAでは、学園単独での開催を進めることで幼稚園児にもワークシヨップの場を設け体験させる等、学園独自のカラーを出せるようにいたしました。貴重な3日間、多くの学園生が、感受能力を高め、身体的感覚を研ぎ澄ませ、多くの体験と交流を深めることに期待をしています。また、保護者の皆様におかれましては、お子様の参加の有無に関わらず、3日間のワークシヨップ(練習)や3日目のショーへいらしていただけたらと思います。



実り多かった昨年十二月の 「松ぼっくりフォーラム」

学園長 仲本 正夫

昨年12月8日に松ぼっくりフォーラム「食の安全と健康を考えるシンポジウム」が開かれました。

卒業生の東京海洋大学客員教授の矢沢一良先生や料理研究家の朝倉倭歌子さん、それに医療ジャーナリストの高田和男さんをお招きし、それに理事長や教員、保護者、在校生が参加しての講演とシンポジウムは、大変すばらしい内容で、その第一歩になりました。この概要は、学園ホームページにも掲載されていますが、NHKの健康情報番組出演でも有名な矢沢先生のご講演では、死を迎えるまで健康に過ごす大切さとその秘訣を教えてくださいました。

感動与えた生徒たちの発言

シンポジウムでは、高田さんの司会で、ドイツでも生活された料理研究家の朝倉さんの食についての楽しいお話や保護者の立場からの食育とお弁当への期待、後援会の田辺さんと辻理事長からはカフェテリアに対する熱い思いなどが語られました。

さらに、フロアからは高校の先生から生徒の嫌いな野菜を5品目あげてもらい、それを塩・こしょうだけでおいしく食べる家庭科のすばらしい実践の紹介や学園祭の生徒企画の食堂で「ラーメンをから作りたい」と「動物の骨からスープを作るところから取り組んだ」生徒さんたちから、「こだわりのあるカフェテリアを作ってほしい」(種子島君)「仕入から完成まで、こんなにも大変で、いっぱい、いっぱい、失敗してところが砕けそうになったときもあつたが、夏休みから何回も試作して、出来上がったときには本当にうれしくて感激した」(松本さん)との発言があり、会場は大きな感動に包まれました。

壇上の矢沢先生は、「うちの研究室にきてほしいのはこういう生徒さん達です」と感動で涙を流されながらのまとめをされました。

同窓生からのご寄付

シンポジウム後、3人の同窓生の方たちからは、差し上げた謝礼を全部80周年記念館建設に使ってくださいとご寄付いただき、さらに矢沢先生からは60冊以上のご著書の売り上げまで全額ご寄付をいただきましたことについて、心から感謝し、ご報告いたします。

じいこ遊びの世界

幼稚園 年少組担任 愛宕奈津美

幼児期に、家族ごっこやお店屋さんごっこ、ヒーローごっこなどで、夢中になって遊んだ記憶がある人は少なくないのではないのでしょうか。

そういう私自身も、幼い頃、人形相手にお医者さんごっこや、値段のちぐはぐなお店屋さん（メロンパン十円♪オレマジジュースはなんと一円！など）になりきって遊んだものです。これらの遊びは『ごっこ遊び』と呼ばれ、いつの時代も子どもの心を夢中にさせています。

ここでは、年少児の一・二学期を振り返りながら、『ごっこ遊び』の魅力的な世界をご紹介します。たいと思います。

年少の一学期は、個々の遊びを楽しむことから始まります。特に保育室の一角にある『おままごとコーナー』は、『ごっこ遊び』をじっくり楽しめる魅力的な環境の一つとなっています。

まだ園生活に慣れず、不安を感じている子にとって、『やりたい遊びがある』事はとても大きな支えです。



おままごとコーナーの玩具は木製のものが多く、木のぬくもりが伝わってきます♡

登園するとすぐに、おままごとコーナーに行き、棚から鍋を出したり、フライパンを出したり：：：思い思いに遊び始めます。

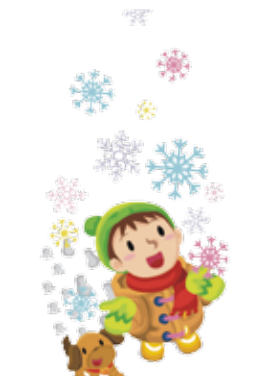
『ごっこ遊び』は空想の世界ですが、そこには必ずイメージの見本となる記憶が必要となります。ここでは、生活の中で目にした家事などの光景からイメージを広げ、遊んでいるでしょう。

二学期になり、『友だちの存在』に少しずつ気付けるようになってくると、今度は保育者が子ども間の橋渡しを行うなかで、友だちと遊ぶ楽しさを味わい、お母さん、お兄さんなどの役割を決めて遊ぶ姿も見られるようになってきます。

た。また、「ピクニックに行こう！」と玩具の鞆に食べ物やお皿を詰め、保育者と共に、他クラス・他学年の保育室に遊びに行くなど、行動範囲も広がった事により、遊びも一層発展、充実したものになっていきます。時には、絵本の世界や他学年の遊びを真似て、お菓子屋さんや郵便屋さん、海賊、レストランごっこなど、イメージを広げて遊ぶ姿も見られました。遊びの世界に必要な道具（チケットやお金、郵便屋さんのバッグ：なんと、海賊船まで！）を、段ボールや空き箱を使って「作りたい！」という意欲にもつながっていきました。

今年度から年少組は保育時間が延び、よりじっくりと遊びに取り組めた事も、子どもたちを大きく成長させてくれたように思います。

子どもたちが「あ〜幼稚園楽しかったなあ〜」と笑顔で帰って行き、私はその小さな背中に「また明日♪」と手を振れるよう、子どもものつばやきやアイデアを広げる言葉かけや、手助けをしていきたいと思います。



ドレスとお面で、うさぎのお姫様に変身♪



段ボール箱を海賊船に見立てて、海賊ごっこが始まりました♪

【一年を振り返って】

平成二十五年三月の卒業生は、校舎が全て完成した第一期目の卒業生です。環境の変化も含め、初めての体験をすることが多い一年でした。

小学校では、二年毎に担任団でクラス名を決めます。この学年は震災の後にクラス替えをした学年でした。クラスの名前は元気に健やかに子どもたちが過ごせるようにと、明るく前向きなものを選びました。「光輝」は光り輝くことを意味し、「暁」は夜明け・明け方のことを指します。「桃李」は、「桃李門に満つ」というようにすぐれた人物がたくさんいることを意味する言葉があります。様々な個性がエネルギーとなり、光り輝く集団を目指してきました。

六年生にとって、一学期の大きなイベントといえば修学旅行です。修学旅行は、今年から新横浜集合になり、一時間近く早い現地到着ができるようになりました。今までタクシー行動でしか選択できなかった宇治平等院も全員で見学できました。奈良の宿泊施設も従前の竹林院に戻りました。竹林院は古来より、修験道に勤める山伏の宿坊として利用され、豊臣秀吉や与謝野晶子、昭和天皇皇后両



陛下が宿泊した宿でもあります。近くには、奈良のCMで有名な金峯山寺蔵王堂があり、青い蔵王権現も間近で見ることができました。こういった宿泊体験ができるのも湘南学園が誇れる部分であると感じます。夜は定番とも言える利休鍋です。同じ鍋を食べること



六年学年主任 寺田 友

でより一体感が生まれました。

三日目の朝は京都の常照寺で座禅体験をしました。百人を超す人数でもあり「二十分程度ですよ」という添乗員の言葉を受け、気軽な気持ちで歩いて行くと何やら物々しい太鼓の音が朝七時の境内に響いていました。結局、カメラマン以外の全員が一時間ほど座禅体験をしました。子どもたちだけでなく担任団も警策を受け、この後の引率の気を引き締めることができました。

その後は、待ちに待ったタクシー行動です。子どもたちは事前



に作った予定表をもとに昼食・お土産の場所も含めた見学プランを体験しました。見学に時間がかかりすぎたり、予定のお店が閉まっていたり、いろいろなハプニングもありました。見学地だけでなく一日を共にしたタクシードライバーとの交流も忘れられない思い出となりました。

修学旅行が終わると修学旅行記の作成に取りかかりました。今年五十枚程度の、文章を主体とした旅行記を作成しました。学期の途中に作文を書くということは大変でしたが、この旅行と旅行記を仕上げるという経験と達成感はこのからの学習の自信につながると思います。



夏が終わり、小学校校舎が全て完成しました。残念ながらプール



には間に合いませんでしたが新しいホールやグラウンドが完成しました。

へ生きる」をテーマに学習を進めました。今年度は公開研究会もあり、クラス毎にダイナミックな活動を行うことができました。インタビュー活動の際、話していただく人との距離を近くするため少人



体育表現まつりでは、最高学年として委員会の活動だけでなく、応援団団長として盛り上げました。「南中ソーラン」も組み体操を加え、ダイナミックな踊りを披露することができました。音楽会は、初の小学校ホールで開催しました。広さの関係で二回公演となりましたが、どのクラスも六年生らしいまとまりと美しいハーモニーが印象的でした。今まで以上に保護者との距離感が近い会となりました。総合学習は「人とつながり未来

原農場など出会う人を増やし、魅力ある人との出会いや「生き様」にふれる活動を通して未来につながる学習を行いました。学んだことは、模造紙にまとめ、発表をするなどして情報を共有しました。子どもたちにとって進路がまだ不明瞭だからこそ純粋にその人の考え方や価値観に接し、魅力を感じられるのかもしれない。活動を通じて感じたことは、学校の周りにはたくさんさんの職種の方々と様々な思いを持った人達がいるということだと思います。貴重な体験になりました。



数制を重視しました。湘南地域を中心に、江島神社、豆腐屋さん、ライフセーバー、相

今、卒業を迎え一年間を振り返ってみると、子どもたちは、たくさんの体験をただだけでなく、多くの人たちと関わってきた中で、たくさんさんの貴重な思い出を得ることができました。多くの先生方だけでなく、沢山の保護者の方々の支えがあったからこそ、安心してのびのび過ごし、個性あふれる子どもたちの今があるのだと感じます。卒業は別れでもあり、新しい出会いの始まりでもあります。小学校で培った「人間力」や「生きる力」を大切に、中学でも全力で駆け抜け光り輝いて欲しいと思います。



「持続可能な未来」について考え始めた生徒たち

中3学年主任 有蘭 和子

中学3年間のの中で、最大の行事ともいえる広島・山口への研修旅行。この絶好の学習機会を、最大限活かしたいと考え、私たち学年スタッフは、活動の目的を次のように設定しました。

①自分たちの生活圏とは違った地域で生活する人々に出会い、そこで暮らす人々の生き方に触れながら、「これからの時代、人はどう生きていくのか」についても考えてみる機会とすること。

②ヒロシマから学び、戦争の事実を深く知るとともに、被爆者の方々の願ひにふれること。

③こうした取り組みを通じて、「核兵器」と「原子力エネルギー」の存在と共に生きる人類が、これからどういう選択をしながら、新たな未来を切り拓いていくのか……いま、全世界の人々の課題となっている「持続可能な未来」についても、是非、考えられるような旅行にしていこう。

さらに、今回の旅行は、生徒たちが主体となって進めることをコンセプトとしました。基本的な学習テーマや旅程は教員が設定しましたが、服装や持ち物、生活のルール、事前学習の準備、そしてしおりの印刷製本

については、旅行委員たちが一つ一つ確認し、クラスで意見を聞いたり、情報をもとに伝えたりしながらすすめてくれました。取り組み始めた当初は、互いに「話したこともない、知らない人」同士だった旅行委員たちが、活動を通じて仲良くなり、次第に仲間意識を持って、批判しあったり、議論しあう姿は、なかなか頼もしく旅行のあいだじゅう彼らは本当に、頼もしいリーダーたちでありました。

子どもたちの作文から……
「もう被爆者の生の声は聞けない」この言葉が今でも耳に残っている。
平和公園を案内してくれてオジさんが悲しそうにつぶやいた。
広島に原爆が落とされた時、僕たちはもちろん、碑めぐりガイドのオジさんも生まれていなかった。
……中略……

そこにいた人は影だけが残り、人は原爆でとばされてしまった。時計は、原爆が落ちた時刻で止まっていた。平和公園の石碑に書いてあった「人間をかえせ」という詞に、「原爆の恐ろしさ」を感じた

(C組 高橋賢人 記)

平和ガイドの方々の話を聴きながら、一人一人の生徒たちが、それぞれ

に、「原爆の恐ろしさ」と向き合ったことがわかります。生徒諸君は、いま地球上に、この広島型原爆40万発分に当たる核兵器が存在している現実についても、事前学習で学んできました。

旅行のあと、生徒諸君には「持続可能な未来について考える」というテーマで、いま紹介したような作文を書いてもらいました。

ヒロシマから学んだことを「過去の事実」に眼を向けられない者は、現在にも「盲目になる」というヴァイツェッカー（元西ドイツ大統領）の言葉を引いて綴った女子生徒。周防大島で、自給自足的な生活に出会い、「こういう無駄のない生き方こそが持続可能な未来の作り方だ！」と断言した男子生徒。そして、祝島と周辺の自然を守りながら、一次産業に励む方々との出会いを通じて、「自分も生きていく、軸をもてる人間になりたい」と書いた男子生徒。民泊先、浮島（うかしま）の「ばあちゃん」の、素朴でちよつとがさつ(?)なもてなしぶりに、初め戸惑っていた女子グループ……それでも、島に生きる人としての「ばあちゃん」の生き方に共感し、作文の最後は「いろんなこと教えてもらったよ。ありがと、ばあちゃん」と結んでいました。

さらに、民泊先のご主人から「いいか、死にたくなるくらい辛いことがあったら、またこの島に戻って来い。」と励まされ、「どんな人間にとつても、大切なのは安心できる居場所」

と書いた男子生徒もいました。彼らの書いた作文を読んでいると、かつてリオの環境サミットで、12歳の少女が行った「伝説のスピーチ」(2009年)を思い出します。彼女は、「貧しさ」や「環境」の問題を、どのように解決していったらいいのかわからない、「大人は、私たち子どもの未来を真剣に考えたことがありますか？」と投げかけました。

旅行の後、生徒諸君は「自分たちも被爆者の健康を祈り、核兵器のない平和な世界を実現したい」と、自発的に千羽鶴を折って広島に送りました。この子らが投げかけてくる二つの言葉を、私たちはどのように受け止めるのか。生徒たちが、仲間と共にこの旅行を作り上げたように、私たち「大人」もまた、手を携えて「新しい未来」を展望していかねばならないときなのだと思っています。



みんなの作った千羽鶴を「原爆の子の像」脇に、届けて下さった平和ガイドの方々。

卒業生・大学との連携を深める高校進学指導

学習進学指導主任 中泉 清和

前回の学園だよりでは、大学合格実績と、卒業生による支援の具体的な取り組みについてご報告をいたしました。今回は、大学進学に向けて、卒業生・大学と連携した取り組みをご紹介します。

高校1年では、高2から分かれることになる文理コースの決定が進路選択の柱となります。大きさに言えば、人生の方向性を決める大事な選択をすることになります。そうした、将来を考えるための仕掛けの1つに、大学の先生方を校内にお招きして授業を行っていただく大学模擬授業があります。今年度は12月に、「モチベーションの心理学」「企業の不祥事と企業経営」などのように、大学で学ぶ実践的な講義や、「Life」を支える看護職者」「薬剤師の仕事」など、職業につながる内容を含むもので、全11講座を開きました。講義後の感想では、「法学に対して大きな勘違いをしていたこともないし、広い世界がある、ということを知ることができてとても良い機会だった。」など、大学で何を学ぶかを知ることとはもちろん、大学で学ぶことの奥深さも感じる機会となったようです。こうした取り組みを経ながら、1月には文理選択の最終決定を行なうこととなります。

高校2年では、高3で履修する選

択授業を選ぶことが重要な進路選択の機会となります。実質的には、この選択によって受験科目を絞り込むこととなります。そのため、高2のうちにはどのような学部を目指すのか、さらにはどのような進路を目指すのか、さらにはどのような難易度の大学群を受験するかを決めなければなりません。生徒諸君にとつては、「本当にこの進路選択でよいか」と迷いを抱く時期でもあります。そのような時期に行なわれるのが、大学キャンパスツアーです。この取り組みが始まった頃は、10校ほどの大学から訪問先を選んでいましたので、場合によっては自分の考えている進路とは異なる大学に訪問することもありました。それでも、平日に普段の大学を見学する意義は大きいものがありました。ここ3年ほどはより訪問先を細分化して、なるべく各人の志望に沿った大学を訪れるようにしています。そうした中、今年度は11月中旬に45校、71コースにも分かれて訪問を実施しました。さらに特筆される点として、この大学訪問当日の案内を、その大学に通う卒業生が協力してくれたことがあります。前回の学園だよりで紹介したサポーターバンクを利用して大学案内を依頼したところ、55名もの卒業生が力を貸してくれました。訪問当日は、志望校に在籍する

先輩に高3の選択科目についてのアドバイスをもらったり、大学で使っているテキストを見せてもらったりするなど、卒業生から具体的な情報や助言を得たことで、「実力的には駄目かなと思っていたけど、やっぱりここに入りたくて強く思うようになった」等、志望校を目指してモチベーションを高めることができたようです。また、当日になつて他の卒業生も案内に加わり、親身に受験勉強の話をしてもらえるなど、学園のために協力を惜しまない卒業生の存在を感じることができた取り組みとなりました。こうした経験も得ながら、高2では、現在を高校3年生・0学期と位置づけ、将来に向けた意識の切り替えが進んでいます。

最後に、高校1年から高校3年までの生徒を対象に、今年度第2回の校内大学説明会を行ないました。今回は、早稲田大学と立教大学の方に来校いただき、大学・学部の特色などについて話をしてもらいました。早稲田大学は担当の方が元県立鎌倉高校の校長ということもあり、生徒と言葉を交わしながらの熱意ある語り口が印象的で、パンフレットからは読み取れない入試の留意点などを、ユーモアを交えながら説明していただきました。立教大学では、学部・入試・就職などの説明があり、具体的に要点を押さえた説明について、参加した生徒・保護者の方から、とても分かりやすかったとの感想がありました。また、説明会後の個別

相談には、初めての試みとして2大に通う卒業生に協力をお願いしました。当日は、来校してくれた3人の卒業生それぞれに生徒・保護者から相談があり、入試に関わる学習法や学部選択などについて、1時間ほど話をしてもらいました。

以上、いくつかの取り組みをご紹介しましたが、こうしたイベントだけでなく、文理選択や進路志望については担任の先生方との面談を通じてじっくり考えることが出来ます。これからも、学校を挙げて生徒一人ひとりが願う未来の実現に向けて取り組んでいきたいと思えます。



校内大学説明会では、大学に通う学園卒業生から真剣にアドバイスを聞く姿が見られました。

大震災から学ぶ、中学校道徳

中高 教務主任 服部 基樹

中学校では、前期と後期の中間試験の翌日に『道徳教育の時間』を設けています。この時間は、中学生が日常生活で接するさまざまな問題に向き合い、マナーやモラルの課題について考え、自分自身を見つめて共に考える機会になればとの主旨で設定しています。

この2年間は、先に発生した『東日本大震災』を受けて、被災地で救助や復興支援活動に携われた方々から直接にお話を伺いたいと考えました。歴史的な大災害とその後の現実と向き、住民の方々の暮らしと切実な願い、復興に関わる方々の努力を知ること、そして自分たちの生活と可能な貢献、家族や地域とのつながり絆を改めて考え直すことを目的としました。その内容を紹介します。

2年間のテーマと講師

「東日本大震災を受けて」

私たちが今できること」

① 藤沢南消防署 高度救助隊員

塩澤氏、小澤氏、黒瀬氏

「大震災から学ぶ、命の大切さ、家族・地域の『絆』」

② 藤沢市役所環境部 指旗 博氏

- ③ 釜石市職員 末永 正志氏
- ④ 『生き抜く、南三陸町人々の二年』 映画上映

① 第1回(23年6月)講演会

手作りの資料・写真を画面に映し、地震のメカニズム、藤沢市の被害想定、被災時に必要な対応について説明されました。

4日間救助に入った気仙沼の惨状：見渡す限りの瓦礫の山、倒壊した建物の下を探り、要救助者の捜索。毎日10時間連続の作業で、汗びつしよりのまま着替えも出来ず、就寝中を襲うしんどい夢、犠牲者の子どもが持つぬいぐるみを見ての思い。久しぶりに聞いたわが子の声に涙が止まらなかったとお話しには、皆、貰い泣きするばかりでした。

被災者との親身な関わり、直後に抱いた痛切な気持ちや思いやり、周りの家族や大切な人達とのつながりを大切にすべきであること、などと呼びかけて下さいました。



② 第2回(23年12月)講演会

藤沢市の職員として石巻の避難所に入り、5月末まで現地の救済・復興活動に従事なさいました。

延々と続く瓦礫の山、全てがさらわれた跡地、潰れた車、横転したビル、スクリーンに映し出された光景はあまりに悲惨。避難所の食事、慣れない共同生活、プライバシーのない環境、夜9時過ぎには消灯となり、音楽も聴けない勉強もできない中高生、などの様子が話されました。このような状況がこの地域でも近い将来に起こる可能性とその時の備えが語られました。

被災地の現実から、自分を取り巻く家族や友人、地域のかげがえのなさを捉え直し、大切な絆を再認識して自分の振る舞いを考えていこうとの提起を頂きました。

③ 第3回(24年6月)講演会

岩手県釜石市職員として防災・広報に長く取り組まれ、教育委員会と連携して市内の小中学生の防災教育を推進なさいました。震災の後に「釜石の奇跡」と呼ばれた生徒達の自主的な行動は、末永様達の指導の成果でした。

被害状況は地域によって相当に違っており、生死を分けた様々な運命も見聞きされ、生き残れたことへの感謝と、後生に伝える使命感を強められたそうです。兆候があったのに自分は大丈夫と過信して、初期の危険情報をやり過ごしてしまう人間の傾向が指摘されました。日常的に万が一に備える訓練を重ね、心身に刻みつける必要性が強調されました。

家族で話し合いを持つことの大切さ、地域との関わりや絆を深めることが重要な防災対策の柱であると説明されました。

④ 第4回(23年12月)映画上映



大阪毎日放送制作の、宮城県南三陸町を1年間にわたり取材した報道映画を上映しました。

魚網が絡まった家の残骸、路上で転覆した船、四方八方に飛ばされた車：何もかもが破壊された町、その中で懸命に動いている人々。やがて、妻を亡くした男性は男手ひとつで幼子を育てていく。仮設住宅の抽選に望みをかける女性、船を失った漁師達が16人共同で定置網漁を再開するまでの苦悩：被災者の素顔と、生死が混在し続ける被災地の記録が映し出されていきました。

これら4回の講演・映画上映を通して、その都度、震災から時間が経過しても、被災地ではなおも懸命の戦いが続いていることを再認識し、報道では伝えられなかった被災地の厳然たる現実を目の当たりにしました。また、改めてかけがえのない命の大切さに気づき、私たちは断つことのできない人と人との結びつきに支えられて生きていくのだ、という認識を深める機会となりました。

「松ぼっくり募金寄付者(芳名)」

学校法人湘南学園

平成 25 年 11 月に迎える湘南学園創立 80 周年の記念募金「松ぼっくり募金」は、本年 1 月 31 日現在、次の個人・団体・法人の方々からご寄付を頂戴し、特別寄付は目標額五千万円のところ三千二百万円に、一般寄付は目標額五千万円のところ二千三百六十二万七千六百二十九円となりました。心から感謝し、ご報告致します。なお、2 回・3 回と寄付された方もおられますので行を改めてご紹介致します。掲載は、ご芳名又は団体・法人名のみ 50 音順とし、敬称は省略させて頂きます。

【特別寄付(教育振興基金等)】

森 稔・関家憲一・山下耕平

【一般寄付】

(80 周年記念館建設資金)

◆個人

相田恵美子 相原秀昭 相原未来 青木一雄
青木香那子 青木斉子 青木泰雄 青木佳朗
青柳真帆 赤井 格 赤坂 一 明場英幸
嶋山昌幸 赤星福子 秋元大祐 秋元良太
秋山 淳 朝倉康之 朝倉優文 朝倉 實
朝田一紀 浅田順一 浅田初江 浅沼 利
愛宕奈津美 穴山雄一 甘粕幸人 綾野鈴子
新井澄子 荒木伸浩 有蘭和子 安斎 隆

安西洋幸 飯島隆史 飯島典光 飯田智一
飯田義隆 飯塚高司 飯塚たみ枝 飯森好充
飯山禮文 五十嵐修 五十嵐竹虎
五十嵐由伎子 五十嵐竜太郎 五十嵐礼恩
池上 聡 池 仁 池田朋子 池田政克
池村 祐一 伊澤善夫 石井孝雄
石井千恵 石井文二郎 石井康子 石井利香
石垣文緒 石川樹一 石川吉彦 石倉英治
石沢直孝 石島忠章 石田公男 石田秀樹
石田 稔 石田由貴彦 石原宏尚 石橋洋子
石原幸夫 井 島 宏 石渡利光 井関琢哉
磯崎光男 五十畑潤一 磯部博樹 市川寿美江
市川秀樹 井出吉彦 伊藤勝弘 伊東邦子
伊藤真哉 伊藤秀明 伊藤 等 伊藤 学
伊藤恵三 伊藤紗玖良 伊藤たか子 稲川あや
稲永朝彦 井上輝彦 井上正樹 井上良子
伊野和也 井原康秀 今里佳奈 今村好一
岩井雅司 岩井耀一 岩井佳子 岩崎希名
岩崎佑之 岩崎行恒 岩沢典子 岩田 保
岩田和久 岩田富貴子 岩波常昌 植田卓真
植田治久 上田正巳 上原由起夫 植松英世
上村裕介 氏家英男 牛込公郎 牛込雅子
白井 章 白井加名子 宇田隆悦 内 島 仁
内田修司 内島孝俊 内山伊史 内海藤夫
梅宮茂良 梅屋和人 羽毛田裕 浦田智禎
浦田雛子 江上尚良 江頭宏亮 江口恵子
江口千恵子 榎本 理 榎本トミ 海老澤健次
遠藤光衛 大石暢彦 大井友子 大内康行
大久保理子 大越 保 大澤隆史 大島智晃
大島真奈子 大島幸雄 大島洋一 大高基子
大竹弘子 大貫純子 大貫文詠 大野圭介
大平英子 大森忠蔵 大森信久 大森正輝
大森祐亮 大脇英司 大脇玲子 緒方哲也
岡田尚志 岡野幹樹 岡部知花 岡部知憲
岡部 稔 岡村和彦 岡本 淳 小川和恵
小川達也 小川 博 小川喜由 小川智洋三
奥嶋 勇 奥野浩一 長内康男 小澤明彦
小澤幸喜 小澤春美 小田英司 小田 慧
小田拓也 尾高惇忠 小野田政弘 小畑幸子
鬼澤美知子 尾上良平 小野大祐 小幡径行

小原万宗 小原美佐江 尾原美和 小俣高斗
織田よしこ 海津千鶴子 加賀美公一 寛 元則
鹿兒島豊 春日雅人 柏木榮三郎 柏木賢志
片多貴子 片奇真司 片山紀花 勝田 誠
加藤次克 加藤はつ子 加藤太一 加藤 照
金澤基彦 金子 晋 金田勝俊 金安晃裕
金指義機 鎌田利彦 神守 茜 神山恵子
加茂哲哉 川井登喜子 川喜多健二 河 浩
河口洋輝 河崎 崇 川瀬啓子 川瀬 忍
川瀬 順 川手由里子 河野一郎 河野奈穂子
川之辺繁 川村光子 河本浩一 川本 透
河本洋子 菅 英雅 神戸和男 神戸洋一
菊池純夫 岸 郁夫 木島武俊 木田哲朗
北川 輝 北川洋子 北村和美 北村 武
橘川 聡 木藤隆清 鬼頭 靖 木下貴志
木下恵美子 木 船 剛 君塚郁夫 木村香央里
木村修司 木村 奨 木村知恵子 木村 貢
木村陽一郎 久家真行 伊藤恵理子 工藤陽也
國方美沙子 窪田真行 久保憲子 熊澤信也
糸百合子 黒岩 健 黒川二子 黒田高弘
桑原一茂 郡 政樹 小川俊介 小池春子
小泉江都子 小泉光郎 小出武男 木暮欣正
小暮隆司 木暮晴美 小出哲明 小柴裕太郎
小嶋恵子 児島弘樹 小城哲治 小 城 花
小菅徳男 小谷美穂子 小谷美和 小 林 春代
後藤康太 小西美子 小宮秀朗 小林春代
小林洋一 小松孝義 小宮秀朗 五味陸明
小屋敷 侑太郎 小山隆史 小山泰子
小山良昭 金剛寺謙 近藤昭子 近藤正隆
近内俊介 斉木 修 近藤章二 齋藤 俊
齋藤 隆 齋藤まり江 財部實禧 佐伯佳奈子
酒井晋一郎 酒井康光 坂野泰亮 坂野康央
坂田和哉 坂田瑞宜 坂田泰治 坂野泰央
坂巻幸宣 坂本義次 佐々木健 佐々木利明
佐々木敏子 佐々木弘男 佐々木浩 佐々木昌巳
雑賀壽和 佐藤彰雄 佐藤昭範 佐藤泰子
佐藤和子 佐藤公俊 佐藤京子 佐藤 忠
佐藤史明 佐藤た多子 佐藤美保 佐藤裕子

佐取 徹 佐野達頼 サヨリ由紀子
澤田 研 澤田康斗 澤村明男 澤村有希
幸加木茂夫 塩入義和 塩方晴通 塩方 文
塩路直樹 志賀祐史 柴谷勝美 清水 一樹
重松智徳 篠塚裕子 柴田 豪 柴山 暁
清水直哉 篠山泰亮 志水裕介 下澤彩香
清水香哉 清水 暢 白井智子 秦 和之
下澤晴子 霜島竜太 新屋忠男 神保佳奈
秦 浩一 神 英幹 杉本 敬 杉山恵二
菅原一朗 杉原正哉 杉本 敬 杉山恵二
杉山功治 鈴木克彦 鈴木 啓文 鈴木千尋
鈴木健次 鈴木浩二 鈴木 純 鈴木千尋
鈴木 努 鈴木秀行 鈴木智洋 鈴木直人
鈴木伸子 鈴木秀行 鈴木裕巳 鈴木雅子
鈴木正純 鈴木政人 鈴木美智子 鈴木康男
関川正博 関口 治 関田俊明 関根善三郎
関野有司 仙波安雄 曾我部 登 空本善孝
高麻浩昭 平良弘之 高尾 登 高尾みずほ
高倉 光 高木多香子 高島晴久 高嶋 儀昌
高島義治 高田耕太郎 高田和男 高田光正
高梨由佳里 高橋一壽 高橋慎司 高橋博樹
高橋文夫 高橋正樹 高松利寛 田川 剛
竹井文昭 武市 信 竹内 均 竹田恵子
武田圭司 武田大智 武田博之 田代 靖
多田直樹 館内祐樹 伊達靖子 田中秋乃
田中明彦 田中 盛 田中淳一 田中 高広
田中隆之 田中哲夫 田中夏樹 田中道子
田中優希 田中雄大 田中友紀子 田中義教
田中四良 田辺真理 田川史郎 田端恭藏
田中久義 玉虫 秀一 田村典正 田村舞里菜
千種浩義 津田 仁 辻 彰彦 辻 好樹
津田小百合 津田悠仁 土屋 彰雄 土屋眞理子
土屋 浩 常松忠宏 園谷真人 津村省浩
鶴岡 仁 鶴田 順 鶴野剛士 寺田 友
出羽 仁 出羽弥生 戸井田能郎 戸塚 仁
遠山和子 常盤敬之 友野三平 戸畑 秀夫
富田和史 富田起代子 富田靖子 富田良男

